

産科における医師確保計画

1 計画作成の趣旨

産科については、政策医療の観点、医師の長時間労働となる傾向、診察科と診療行為の対応も明らかにしやすいことから、暫定的に産科における医師偏在指標を示し、地域偏在対策に関する検討を行います。

2 産科医師偏在指標及び相対的医師少数区域

(1) 産科医師偏在指標の設計

$$\text{産科医師偏在指標} = \frac{\text{標準化産科・産婦人科医師数}(\ast)}{\text{分娩件数} \div 1000 \text{ 件}}$$

$$(\ast) \text{ 標準化産科・産婦人科医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

○産科医師偏在指標の考え方・留意点

- ・ 医療需要については、「里帰り出産」等の妊婦の流出入の実態を踏まえた「医療施設調査」における「分娩数」を用いる。
- ・ 医師供給については、「医師・歯科医師・薬剤師調査」における「産科医師数」と「産婦人科医師数」の合計とする。
- ・ 性・年齢別分布については医師全体の性・年齢別労働時間を用いて調整する。

(2) 相対的医師少数区域とは

相対的医師少数区域：産科医師偏在指標の下位 33.3%に該当する周産期医療圏

※ 国が示すガイドラインでは、産科医師の追加的な確保ができない医療圏であるとの誤解を避けるため、産科においては医師多数都道府県及び医師多数区域は設けないこととされています。

(3) 医師偏在指標及び相対的医師少数区域の設定について

(国の示す指標)

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
全国	12.8	—	11,349	75%	888.5	793.8	—
青森県	9.4	少数	88	85%	9.4	7.7	86.9

津軽地域	17.0	—	33	82%	2.0	1.7	15.4
八戸地域	5.7	少数	17	93%	2.9	2.4	22.3
青森地域	7.1	少数	18	79%	2.4	1.9	17.8
西北五地域	8.3	少数	6	102%	0.7	0.6	5.1
上十三地域	8.4	少数	7	73%	0.8	0.6	5.8
下北地域	15.1	—	7	86%	0.5	0.4	3.9

〈用語の整理〉

- ・ 産科偏在対策基準医師数：計画の終期である 2023 年に、下位 33.3 パーセンタイル値を脱する医師数ですが、確保すべき医師数の目標ではありません。

○妊婦の流出入調整

産科医師偏在指標では、「里帰り出産」等の医療提供体制とは直接関係しない流出入がありますが、現時点で妊婦の住所地と分娩が実際に行われた医療機関の所在地の両方を把握できる調査がないため、医療需要として分娩が実際に行われた医療機関の所在地が把握できる「医療施設調査」における「分娩数」を用いており、国が示すガイドライン上、**都道府県間の流出入調整は不要**とされています。

○二次保健医療圏域の設定の見直し

青森県保健医療計画にもあるとおり、上十三、西北五圏域においては隣接する圏域への依存はありますが、県全体としては周産期医療に係る医療連携体制の圏域は概ね 6 つの二次保健医療圏単位で完結していることから、現行の二次保健医療圏と同様とし、見直しはしないこととします（小児科医師確保計画と同じ取り扱い）。

○二次保健医療圏を超えた地域間の連携の推進

青森県保健医療計画にあるとおり、青森県周産期医療システムに基づいて全県区でカバーする体制とします。

3 三次保健医療圏

(1) 医師数等

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
青森県	9.4	少数	88	85%	9.4	7.7	86.9

(2) 相対的医師少数県

三次保健医療圏としての本県の産科医師偏在指標は 9.4 で全国 43 位であり、相対的医師少数県に設定されます。保健医療圏ごとに見ると、八戸地域、青森地域、西北五地域、上十三地域が相対的医師少数区域に設定されています。

(3) 医師確保の方針

相対的医師少数県であり、産科医・産婦人科医数の増加を基本とします。

(4) 個別検討事項

総合周産期母子医療センター等においては、産婦人科医師は産科医師偏在指標の需要には含まれていない分娩以外の産婦人科医療にも従事していることに留意する必要があります。さらに、それらの産婦人科医療を受ける患者の重症度は概ね高いことに留意する必要があります。

(5) 基準医師数を踏まえた施策

① 2023 年度末までに取り組むべき施策【P15～P20 の再掲】

- ① 弘前大学医学部医学科への地元出身者枠、地域枠維持の要請
- ② 地域枠入学者への修学資金の貸与
- ③ 県外の医学部に進学する者への修学資金の貸与
- ④ 弘前大学医学部医学科卒の若手医師の県内定着推進
 - ・ 医療チュートリアル体験
 - ・ ドクタートーク
 - ・ 臨床研修医ワークショップ
 - ・ 医師臨床研修指導医ワークショップ
 - ・ 臨床研修病院との連携
 - ・ 地域医療実習
- ⑤ U I J ターン医師の確保
- ⑥ 若手医師のキャリア形成プログラムの策定

⑦寄附講座の設置等

- ・ 県が設置している寄附講座
- ・ 県が補助を行っている寄附講座

⑧医療提供体制の効率化

- ・ 地域医療構想の推進
- ・ 連携、機能分化
- ・ 上手な医療のかかり方の推進

⑨地域卒医師の派遣調整

⑩医師の勤務環境改善

⑪医師少数区域で勤務する医師を認定する制度

⑫上記に加え、弘前大学等との協議や地域医療対策協議会等において新たに必要とされた事業の実施について検討していきます。

2 2036年度末までに取り組むべき施策【P20 **2**の再掲】

①弘前大学医学部医学科への地元出身者枠、地域枠維持の要請

②地域枠入学者への修学資金の貸与

③県外の医学部に進学する者への修学資金の貸与

④上記に加え、現在実施中の事業で弘前大学等との協議や地域医療対策協議会等において必要とされた事業は引き続き実施していくほか、協議の中で新たに必要とされた事業の実施について検討していきます。

3 産科医・産婦人科医の増加に向けた取組

①養成数の増加

- ・ 学生に対する積極的な情報提供による、診療科選択への動機付け
- ・ 研修実施に対するインセンティブ（県が設置している寄附講座）、診療科枠の制限をかけた医学生に対する修学資金の貸与、指導医に対する支援

②寄附講座の設置等【再掲】

③医師の派遣調整

4 二次保健医療圏

(1) 津軽地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
津軽地域	17.0	—	33	82%	2.0	1.7	15.4

○医療提供体制の現状、課題

津軽地域の産科医師偏在指標は 17.0 であり、全国 284 の周産期医療圏中では 41 番目、県内では 6 圏域中最も高い指標値となっており、相対的医師少数区域には設定されていません。しかし、当圏域では弘前大学医学部附属病院と国立病院機構弘前病院に地域周産期母子医療センターが設置されていること、弘前大学では高次医療施設の機能を持つこと、さらに弘前大学から各圏域へ診療支援医師が派遣されていることを考慮すると、産科医師数は充足しているとは言えません。

特定機能病院：弘前大学医学部附属病院

地域周産期母子医療センター：弘前大学医学部附属病院、国立病院機構弘前病院

地域周産期医療協力施設：健生病院

(2) 八戸地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
八戸地域	5.7	少数	17	93%	2.9	2.4	22.3

○医療提供体制の現状、課題

八戸地域の産科医師偏在指標は 5.7 であり、全国 284 圏域中 273 番目、県内では 6 圏域中最も低い指標値となっており、相対的医師少数区域に設定されています。

地域周産期母子医療センター：八戸市立市民病院

地域周産期医療協力施設：五戸総合病院、八戸赤十字病院

(3) 青森地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
青森地域	7.1	少数	18	79%	2.4	1.9	17.8

○医療提供体制の現状、課題

青森地域の産科医師偏在指標は 7.1 であり、全国 284 圏域中 252 番目、県内では 6 圏域中 5 番目の指標値となっており、相対的医師少数区域に設定されています。

総合周産期母子医療センター：県立中央病院

地域周産期医療協力施設：青森市民病院

(4) 西北五地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
西北五地域	8.3	少数	6	102%	0.7	0.6	5.1

○医療提供体制の現状、課題

西北五地域の産科医師偏在指標は 8.3 であり、全国 284 圏域中 219 番目、県内では 6 圏域中 4 番目の指標値となっており、相対的医師少数区域に設定されています。

地域周産期医療協力施設：つがる総合病院

(5) 上十三地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
上十三地域	8.4	少数	7	73%	0.8	0.6	5.8

○医療提供体制の現状、課題

上十三地域の産科医師偏在指標は 8.4 であり、全国 284 圏域中 217 番目、県内では 6 圏域中 3 番目の指標値となっており、相対的医師少数区域に設定されています。

地域周産期医療協力施設：三沢市立三沢病院

(6) 下北地域

産科医師偏在指標			産科医師数		分娩件数	分娩件数将来推計 (2023 年年間 分娩件数)(千件)	産科偏在対策 基準医師数 (2023 年)(人)
周産期 医療圏名	産科医師 偏在指標	区分	産科医師数 (人)	分娩取扱い 医師数割合 %	年間調整後 分娩件数 (千件)		
下北地域	15.1	—	7	86%	0.5	0.4	3.9

○医療提供体制の現状、課題

下北地域の産科医師偏在指標は 15.1 であり、全国 284 圏域中 66 番目、県内では 6 圏域中 2 番目に高い指標値となっており、相対的医師少数区域には設定されていません。当圏域は診療所が少ないことや交通機関のせい弱さなどから中核病院であるむつ総合病院に患者が集中しており、医師の疲弊が懸念されます。

地域周産期母子医療センター：むつ総合病院

(空ページ)